

グリーントピックス

No.64

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場

クリーンラーチの挿し木ハウスを開発しました！

クリーンラーチの挿し木は、6月から8月頃に伸長中の緑枝を用いて行われます。しかし、伸長中の挿し穂は組織が柔らかいため、湿度が低くなると萎（しお）れが発生し、枯死にいたることもあります。そこで生産現場では、湿度を高く保つため、挿し床にフィルムなどの資材を被せてきました（写真-1左）。その一方、密閉された挿し床は日が射し込むと気温が上昇し40℃に達することもあります。気温上昇を抑えるため、寒冷紗による遮光も行われていますが（写真-1左）、遮光しすぎると苗が弱り病気が発生したり、発根量が少なくなるという課題がありました。これらの問題を解決するため、林業試験場と北方建築総合研究所の共同研究により挿し木用のハウスを開発しました。

飽差（空気の乾湿を示す指標）が 10 g/m^3 になるとミストを3分間隔で5秒噴霧する装置を設置したことで（写真-1右）、日中の相対湿度を70%程度に保持し（図-1）、穂の萎れを抑えることができました。高温対策としては、ハウスの側窓や妻面を開放して外気を流入させるようにしましたが、ミストによる気化冷却の効果も加わり、気温上昇を抑えることができました。その結果、挿し木の地上部の成長や根量が増加しました（図-2）。

（育種育苗G 今 博計）



写真-1 従来の一般的な栽培施設（左）、改良した栽培施設（右）

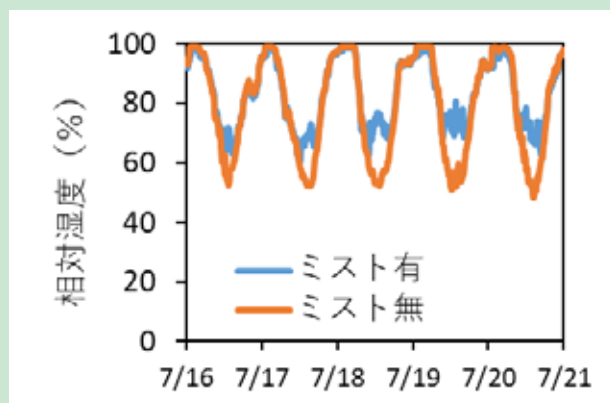
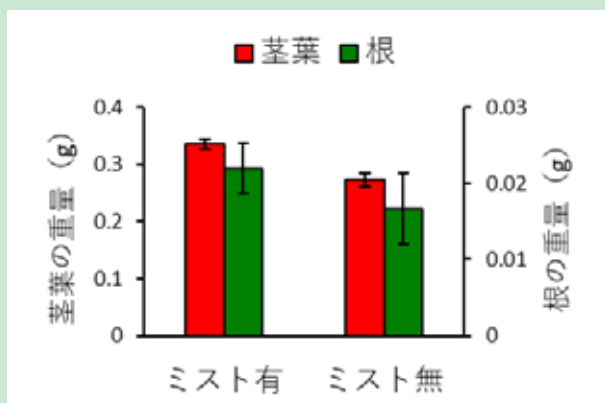


図-1 ミスト噴霧による相対湿度の保持効果

図-2 ミスト噴霧による苗サイズへの影響
挿し付け後8週目の乾燥重量